

619 イン트라ネットによる現場技術情報共有化システム

太田 衛 高岡 良行 (東光精機)
 岩爪 道昭 武田 英明 西田 豊明 (奈良先端科学技術大学院大学)
 水上 雄一 (関西電力)

A Technical Information Sharing System on an Intranet
 Mamoru Ohta, Member Yoshiyuki Takaoka, Member (Toko Seiki)
 Michiaki Iwazume, Member Hideaki Takeda, Non-Member Toyoaki Nishida, Member
 (Nara Institute of Science and Technology)
 Yuichi Mizukami, Member (The Kansai Electric Power)

1. まえがき

イントラネットとはWWWや電子メール、TCP/IPを用いたネットワークなどのこれまでインターネットで利用されてきた計算機技術を、企業内の情報システムにそのまま利用しようとする取り組みであり、特別な設備がなくても情報システムを構築・利用できるといった利点を持つため、企業内の情報共有化の有力な手段として注目されている。この状況に鑑み「配電用変電所における流用変圧器改修設計業務」における技術情報(テキスト、静止画、動画)をドキュメントベースという形で体系化しイントラネット上に設置したサーバに格納する方法を使った業務支援システムを試作したのでその概要を報告する。

2. 技術情報共有システム

本システムのユーザとなる設備改修設計者は、パソコン上のWWWブラウザを用いて、図1に示す様にイントラネット上のサーバに格納してある技術情報を利用する。技術情報は通常の文書に近いドキュメントベースという形で記述し、文書内の用語間や静止画、動画などのファイルへのリンクにより体系化しておく。この手法を用いれば、専門家が理解できる形で技術情報を記述することができるので比較的容易に実用的なシステムを構築することができる。このプロトタイプ⁽¹⁾では、「配電用変電所における流用変圧器改修設計業務」を支援することを目的として、A4で約80ページの文書情報をHTML形式に変換し、文書内

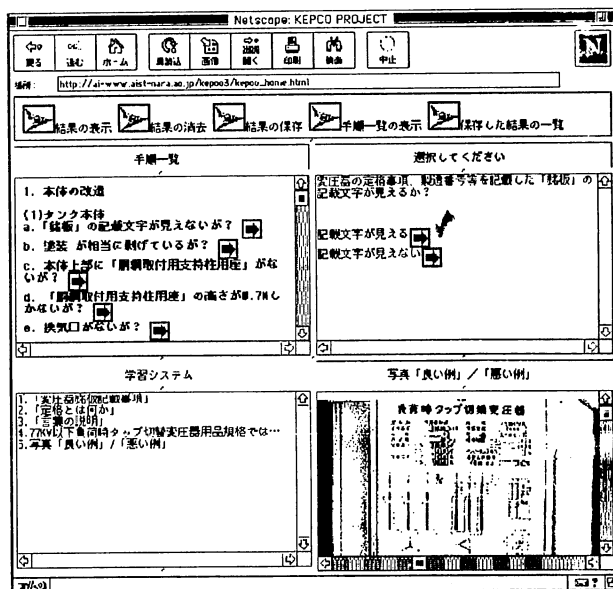


図2. プロトタイプの画面例

Fig. 2. An Example of Operation Window.

用語と資料(テキスト、静止画、動画)のリンクを施す方法でシステムを構築した。WWWブラウザ側画面の例を図2に示すが、ボタンとリンクの多用により、情報の動的提示可能となっている。

3. むすび

今後はこのプロトタイプを現場の利用者に評価してもらい、実用レベルに近いシステムとすべく改良を加えていく予定である。又、技術情報の体系化の簡易化と検索の容易化の為にオントロジー整備を考えたい。同時に、使い易くするためにエージェント技術の利用も考えたい。

文 献

- (1) 岩爪道昭、武田英明、西田豊明、高岡良行、太田衛、水上雄一；現場技術情報共有の知的支援、情報処理学会第54回全国大会、1997年3月

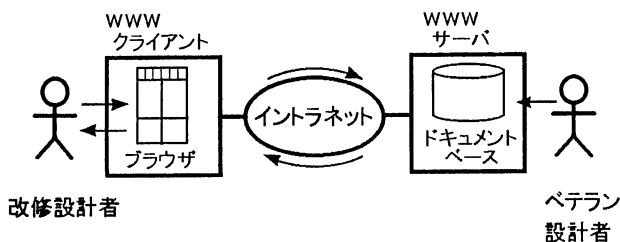


図1. システム構成図

Fig. 1. System Configuration.